



代表の貝瀬 真知子さん



百貨店などの催事場でも販売しています。



広報『富士見』(毎月1日発行)は、市内の公共施設や駅などにも置いてあります。声の広報『富士見』(音声DAISY(デイズィー)版)は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで観くこともできます)。

市長の事業者訪問

FACE to FACE 35

KODAMA-蚕玉

所在地/水谷東2丁目



今回は、使われなくなった着物や帯を主素材として、小物入れやバッグを製作するアップサイクル事業を営むKODAMA-蚕玉を訪問しました。

に込められた想いや記憶が消えるものではありません。「もう一度暮らしの中へ戻したい」そうした想いがKODAMA-蚕玉創業の原点です。

人々の想いや記憶を宿す布を、日常へ

創業のきっかけは、一本の帯から生まれたバッグとの出会い。「使われなくなった帯が、こんなにも自然に日常に溶け込むのか。その美しさに心を打たれ、背筋が伸びるような感覚を覚えました」と語るのは、KODAMA-蚕玉代表の貝瀬真知子さん。使い続けるうちに、「誰が締め、どんな節目を迎えたのか、帯に宿る“人の記憶”に思いを巡らせるようになりました」と語ります。貝瀬さんの祖父は、かつて新潟県南魚沼市で、国の伝統的工芸品である本塩沢の織物業を営んでいました。「祖母の死装束として本塩沢の着物が選ばれた光景は、今も強く心に残っています」と振り返り、「着物とは、日本人にとって特別な存在。その実感が、布へのまなごしを変えました」。着る機会が減ってきた着物や帯。それでも、そこ

試行錯誤の特許技術で新たな循環

着物や帯は雨に弱く型崩れしやすいため、本来、日用品に向かない素材であるという現実に直面します。それでも課題に向き合い試行錯誤を経て、特許取得の防水加工技術を完成させます。この技術により、着物や帯は、実用性を備えた新たな素材として生まれ変わります。貝瀬さんの作品には、蚕から始まる命の連鎖と、多くの人の想いが重なっています。「今後はアパレルやインテリア分野への素材提供などBtoB事業にも挑戦したい」と語り、お客様自身の着物や帯とともに製作するワークショップの準備を進めるなど将来の事業展開を見据えます。今回の訪問では、独創的なアイデアでサステナブルな取り組みを実践する事業者と想いを共有し、持続可能なまちづくりの実現に向けてともに歩んでいきたいと思いました。

■市公式ホームページ



■ SNS



LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube



【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で



【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴



Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。



みんな笑顔☆ふじみ ☎ 049-251-2711(代)

富士見市

FAX 049-254-2000

〒354-8511

富士見市大字鶴馬1800-1



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

